

報告書名：国際的にみた政府統計データベースを利用した歯科領域研究の実態調査
第 3 回米国全国健康栄養調査の歯科的データベース利用について

研究者名：丸亀知美、品田佳世子、川口陽子

所 属：東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野

[緒言] わが国では歯や口腔に関するものを含めて国民の健康に関する多くの政府統計が行われているが、このデータを利用して再解析を行い、新たに歯と全身の健康の相互関連をみることはできない。そこで、政府統計データベースが個人で利用できるシステムが確立している米国での第 3 回米国全国健康栄養調査(Third National Health and Nutrition Examination Survey: NHANES III)の概要を把握し、歯科領域での研究発表論文を検索する事により、わが国での政府統計データベース利用の可能性について検討することを目的として、本研究を行った。

[方法] 1. 米国の NHANES III を調べて、調査内容の概要について記載した。
2. NHANES III をデータベースとして利用し再解析した歯科領域の原著論文を medline より検索し、 歯科疾患に関する記述疫学研究と 歯と他の要因との関連を検討した分析疫学研究に分類した。さらに について、解析対象者および人数、解析に使用した歯科、口腔の健康に関する変数および歯科以外の変数、研究の目的または仮説について調査した。なお、独自データの解析をもとに NHANES III の結果と比較したものは除外した。

[結果]

1. NHANES III は、米国民の健康および栄養状態について包括的に把握するために全米の人口構成を表すように抽出された年齢 2 ヶ月以上の米国人約 3,400 人を対象とした大規模な調査である。調査内容は、様々の分野の専門チームが移動検査センターで行う健康診断(歯科含む)だけでなく、聞き取りと質問票を併用した食事調査、心身の健康状態、保健サービスのアクセスなど多岐にわたる。歯科健診は 1/2 顎に対して齲蝕、歯周疾患検査を詳細に行っている。

2. 論文は全部で 36 編(中間報告を除く)あり、そのうち記述疫学研究論文は 13 編、分析疫学研究論文は 19 編であった。この他、調査の中間報告として公表された論文もあった。また、妥当性など方法論について検討を加えたもの、他の政府統計と共に歯科疾患の年次変化を検討したものなど異なる視点からの論文もみられた。分析疫学研究の対象年齢は目的に従い 2 歳から 90 歳まで幅広い層を対象にしていた。仮説検証には近年の全身疾患との関わりへの関心の高まりを受け、血清脂質、骨密度、H. pylori 感染、慢性閉塞性肺疾患など、全身の健康との関連の解析が多く見られた。また、補正要因として年齢、性、喫煙歴などが用いられていた。

[考察] NHANES III では、新たに莫大な予算、資源を投入することなく、目的に応じた柔軟性および信頼性のあるデータを提供していた。一方、わが国の場合、歯科疾患実態調査を例にとると、歯科保健上重要な情報を提供しているが、同時に行われた国民栄養調査とのリンケージを行って再解析し、歯の健康と全身の健康や栄養状態などとの関連をみることはできず、NHANES III と同様の検討を行うことは困難な状況である。ますます高齢化が進むなか、「8020」を実現していくために、独特の生活習慣をもつわが国で、独自のデータを利用して口腔の健康と全身の健康、生活、食事との関わりを検討できる「政府統計データベース利用システム」があればわが国の歯科保健の向上に大きく貢献できると考えられた。